網張ビジターセンター ニューズレター

Amihari visitor center

Vol.62
2015.9

（写真提供：三井 秀男 氏）

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori ＊ 網張の森の生き物たち ＊ amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

“コテングコウモリ”との出会い

今年も８月に「コウモリ調査体験・観察会」を実施しました。「なぜ網張でコウモリ行事を？」と不思議に思われるかもしれませんが、遡ること９年前。網張の森に設置した野鳥の巣箱の中に“コテングコウモリ”が休んでいたのがきっかけとなり、NPO 法人コウモリの保護を考える会との共催でコウモリ調査を兼ねた観察会を毎年実施するようになりました。コテングコウモリは頻繁に確認されていて“観察会の常連さん”でもあります。「こわい」、「不気味」などのマイナスな印象が先行しがちなコウモリですが、想像とは裏腹に実際に目にした参加者からは「かわいい！」、「意外と小さいんだね～」との声が多く聞かれました。あの小さな体で超音波を使いながら真っ暗な森の中を器用に飛び回り、エサとなる虫を捕らえる…。目にすることは難しいですが、虫が爆発的に増えないのは夜に活動しているコウモリのおかげでもあります。

What is “Kotengukoumori”?

『枯葉の中でも寝るコウモリ』

ヒナコウモリ科
頭胴長：41～54mm 前後
分布：北海道～屋久島

コウモリのねぐらは洞窟や木の洞穴や隙間、建物などだが、バナナの若い葉っぱや竹の中に棲むコウモリもいる。コテングコウモリは枯葉の中や土の中、雪の中で寝ていることもある。網張ではオオイタドリの枯葉の中にいたことがある。

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori

網張コースの登り口、木の階段がリズミカルに続いていく

5番の標識を通り過ぎゲレンデを横切る砂利道を下ると、網張コース（岩手山や三ッ石山方面）との分岐点上に立つ6番標識が見えてきます。天気のよい時は烏帽子岳（乳頭山）方面の展望もおすすめです。

網張の森 セルフガイド

在来植物と外来植物　網張スキー場は自然林も部分的に残されていますが、多くは広大で日当たりのよい斜面で構成されています。人の手が入りぽっかり空いた空間なので、そこを埋めようと植物たちは激しい勢力争いを繰り広げてきました。

夏のゲレンデは、おなじみのススキやナンブアザミなど、背の高い在来植物が数的に優勢ですが、そこに近年強力なライバルが名乗りをあげました。特定外来生物のオオハンゴンソウです。オオハンゴンソウは種から育つだけではなく、地下茎で栄養繁殖も行うので、数を爆発的に増やすことができます。

9月に入り、ゲレンデは冬に備えて大規模な刈り払いが行われました。ひとまず休戦ですが、地上で地下でと、まだまだ小競り合いは続きそうです。

正面に見えるのは小高倉山、右手の烏帽子岳方面は雲に覆われている

←ゲレンデにひっそりと咲くエゾオヤマリンドウ

マイヅルソウは赤い実をつけていた→

オオハンゴンソウは、各地で駆除が行われるようになってきたが、数を減らしていくのは容易ではなく、持続的な活動が求められる→

Amihari Birds

アミハリ・バーズ　vol. 5

ハシブトガラスの生息地は市街地や海岸・川原・農耕地など広範囲ですが、もともとは森林に住む鳥だと考えられています。

先日、数羽のハシブトガラスが狩りをする様子を、ビジターセンターの職員が目撃しました。飛翔するセミやチョウを、空中で器用にキャッチし捕食していたそうです。これらのカラスは、網張の森をなわばりにしているようで、夕暮れ時にねぐらを求めて山に上がってくるカラスたちとは違い、日中も背の高いカラマツなどにとまり、カアカアと澄んだ声で鳴いています。カラスは巣立ちをしても、しばらく家族で行動を共にする事があるので、狩りをしていたカラスたちも仲睦まじい親子だったのかもしれません。

ハシブトガラス

科名:カラス科
全長:約 56.5cm
生態:留鳥
分布:小笠原を除く全国

来年、国立公園編入６０周年を迎えて今は昔・・・　網張近辺　今昔ものがたり

来館者の中に「若いころ網張から岩手山に登ったよ。昔はここに古びた温泉があったけど、すっかり風景が変わってしまったなあ」と懐かしそうに話す年配の方がおられます。現在、ビジターセンターと日帰り温泉館が建っているあたりは、以前に網張温泉があった場所です。今昔物語・第三話は、国立公園編入直後の昭和 30 年代の網張温泉を最もよく知る方のお話です。

第三話　・・雫石町営時代の「網張館」管理人を勤めた村上（むらかみ）　匠（たくみ）さんのお話　・・

「突然、小屋番やれと言われて・・・」

「牧野を通って網張の旧道を登ってくると目印の木が見えてきます。見事なオオヤマザクラの大木が３本、そこが網張温泉でした」。村上さんは昭和 23 年に中学校を卒業すると結成されたばかりの「裏岩手山岳会」に入り、網張を拠点に登山を始める。当時の網張温泉は個人経営だったが、施設は老朽化して次第に管理も行き届かなくなり始めていた。

「昭和３４年５月に全日本山岳競技大会に派遣され、帰ってきたら会のリーダーだった長澤新一さんから、『雫石町が網張温泉を買収したのでお前が小屋番やれ』と突然言われたのです」。建物はボロボロで屋根のあちこちから雨漏りするような状態。村上さんは、寝る間も惜しんで修理作業に没頭した。「予算は当時の金で５万円。新しい建材は買えないので古材でなんとかしのぎ、屋根もトタン板は高いので、スレート板で葺きました」。「父親が大工で、その手伝いをしていたので、ほとんどのことは、なんとか自分でやることができましが、現場に泊りがけで本当にきつい作業でした」。７月１日の山開きには、どうにか間に合い、その後、村上さんは雫石町から正式に管理人を依頼されることとなる。

「戦後の混乱期が終わり、登山客が多くなってきました。山菜採りの人もシーズン中には沢山来ました」。

町営時代の網張温泉、建物後方のアカマツが一本だけ今も残っている。（村上さん撮影）

「当時、飲み水は薬師の泉から引いていました。木桶に溜め、登山者が使えるようにしていました。トイレは湯ノ沢から引いた水でその時分珍しい水洗方式でした」。「食料は麓の中川商店からジープで運んでもらいましたが、冷蔵庫なんかないので魚は塩漬け、献立も苦労しました」。「布団は重たく晴れた日はとにかく干して叩いて少しでもふわっとなるようにしました」。そんなある日、登山者が骨折して折れた腕をぶらぶらさせて降りてきたことがあったそうです。「タオルを二つ裂きにして包帯の代りにして、卵、メリケン粉、酢で手製の湿布薬をつけて当て木で支え応急手当してなんとか急場をしのぎました」。「東京の高校の山岳部が 150 人泊まったことがあります。大釜でなんとか米は炊けました。味噌汁の具は残っていた山菜がちょっと、箸は無いから木の枝で代用。茶碗は全く足らず、交代で食べてもらいました。弁当のおにぎりに巻く海苔も無く梅干しの小さい切れ端を入れただけ。それでも誰ひとり文句は言いませんでした。今でも忘れられない一番の思い出です」。（続く）

今年も網張へ大学生がやってきた！
―夏休みインターン実習―

関西学院大学の総合政策学部に所属する４人の大学生が「国立公園の現場を知ること」を目的に一週間、ビジターセンターに寝泊まりして、スタッフと一緒に自然解説や外来植物駆除といった業務を体験しました。何もかもが初めての事でとまどいもあったと思いますが、日本各地で自然と人間の関わり方を考えていきたいと考えている若い世代がいることは、頼もしく感じられました。

・網張の森を歩いてみたが、やっぱり「自然がすごい！」という感想しかでてこない。ここに来て何回思ったことか。**（翼）**

・何もかもが初めての連続でとても良い勉強になったと同時に岩手の人々の優しさと団結力を感じました。**（菜々花）**

パークボランティアの原由美さんの指導で初めてのネイチャーゲーム「葉っぱを使った仲間さがし」を体験

・登山はしんどくて自分の体力の無さを痛感しました。雨が降ったあとの土の上の滑りやすさ、山での気温の変化など実際に行ってみないとわからない自然のことがたくさんありました。**（里彩子）**

・手書きの案内図を作りながらここで経験した様々なことが思い出された。ここに来れて本当に良かったと思う。**（秀作）**

大学生たちがワークショップで作ったビジターセンター案内図

自然観察会報告

7月11～16日「夏の網張の森ヒメボタル観察会」

・今年も網張のヒメボタルは、７月１１日から１７日までの一週間が発生のピークでした。10 年間寸分の狂いもありません。総勢７０名が観察会に参加し暗闇の中の「いのちの輝き」を見守りました。

7月20日「火山教室・岩手山の水蒸気爆発を知る」

・各地で火山活動が活発化する中で参加者から熱心な質問が相次ぎました。岩手火山研究の第一人者、岩手大学の土井教授から「登山中の普段と違う兆候に気づくこと」の大切さを教わりました。参加者１３名。

8月8日「網張の森・夜のいきもの観察会」

ライトトラップに集まった虫の観察

・私たち人間が活動しない夜の森は不思議な魅力に満ちています。夜の観察会に集まったのは４１名。

講師のＮＰＯ法人「コウモリの保護を考える会」の作山さんは「気づかないけど身近にいるコウモリに親しみを感じて欲しい」と語り、「岩手虫の会」の三井さんは、ライトトラップに集まった沢山の虫について一匹一匹ていねいに解説してくれました。

＊インフォメーションコーナー

詳しいお問い合わせは網張ビジターセンターまで

網張高原温泉郷運営協議会と共催「秋の紅葉網張高原ハイキング」

10月18日(日)

網張ビジターセンター集合
9:30～12:30
定員20名
参加費大人500円
小学生300円

森林教室「親子で自然クラフトを楽しもう」

11月1日(日)

網張ビジターセンター集合
9:30～12:30
定員10名
参加費大人500円
小学生300円

クラフト教室「世界に一つ、手作りほうきに挑戦」

11月15日(日)

網張ビジターセンター集合
9:30～15:00
定員10名
参加費2500円
講師：雫石民藝社

●現在開催中の網張ビジターセンター企画展●9月1日から10月31日までビジターセンター展示コーナーにて

四季を通じて岩手の山を撮り続ける細川敬次さんの写真展「山スキーで行く八幡平エリア」～一度は見たい雪山の絶景～

奥州市在住のフォトトレッカー細川敬次さんは天気のよい日だけを選んで山に入ります。

わたしたちが簡単には目にできない雪に輝く国立公園、八幡平エリアの景観をお楽しみください。

モモンガのつぶやき

ビジターセンターへの来館者はどなたも大歓迎なのですが、時には招かれざる客もやってきます。

今夏、近くの牧場からおびただしいアブたちの訪問を受け、その対応に追われました。

一度、小指のつけねをブスリとやられ、通勤時ハンドルを握るのに違和感を感じるくらいはれた事も…。嵐のように襲来しパタッといなくなったアブたちでした。(K. H)

十和田八幡平国立公園　網張ビジターセンター

来館者数　◆7月　2，526人　◆8月　3，817人
朝9時のビジターセンター平均気温　◆7月 16.4℃　◆8月 16.1℃

発行　網張ビジターセンター運営協議会
〒020-0585　岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2（網張温泉）
TEL　019-693-3777　FAX　019-693-3778
URL　http://amihari17.ec-net.jp
E-mail　amihari@vanilla.ocn.ne.jp
開館　夏期（4月～10月）休館日なし　9時～17時
冬期（11月～3月）毎週火曜日休館